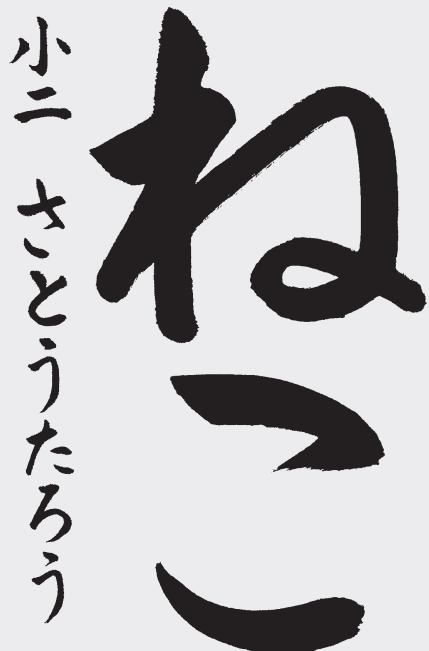


〔6月10日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

(幼・小1の方は、学年を書かなくてもよい。)

小学2年参考手本



佐藤 莉扇 先生

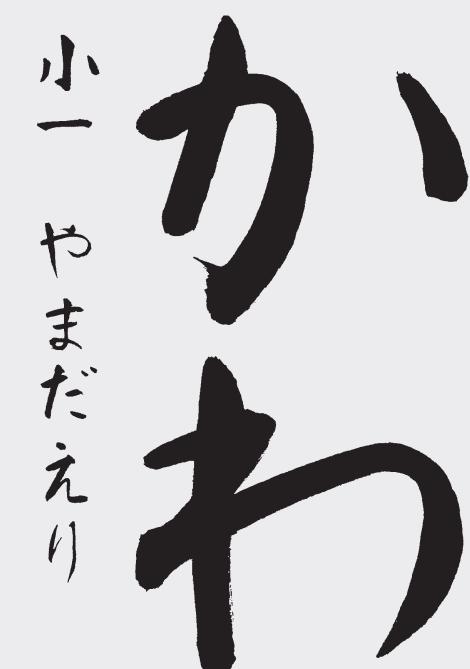
幼・小学1年参考手本



加瀬 澄春 先生



千葉 蒼玄 先生



田村 郑雲 先生

〔6月10日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学4年参考手本

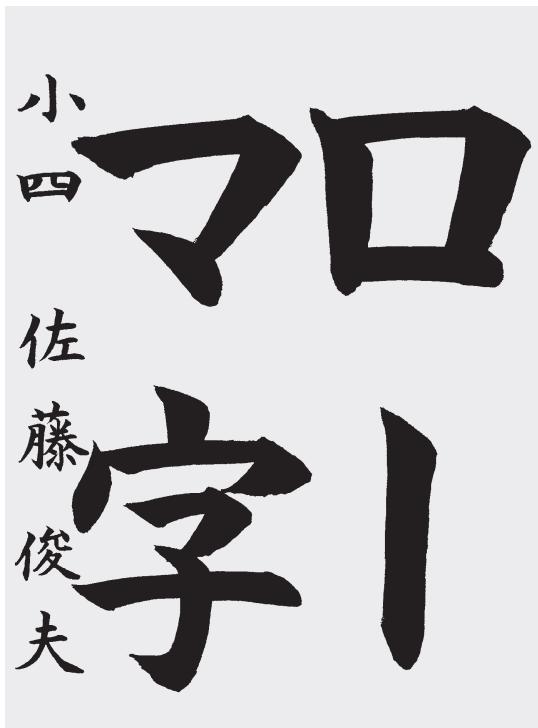


三浦 鄭街 先生

小学3年参考手本



広瀬 舟雲 先生



大隅 晃弘 先生



名越 蒼竹 先生

〔6月10日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学6年参考手本

小六 山県奈々子

応用

弓削光峰先生

小六 坂田和子

若葉

半田藤扇先生

小学5年参考手本

小五

仁木光

必要

工藤永翠先生

起き

小五  
江川太

辻元大雲先生

〔6月10日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

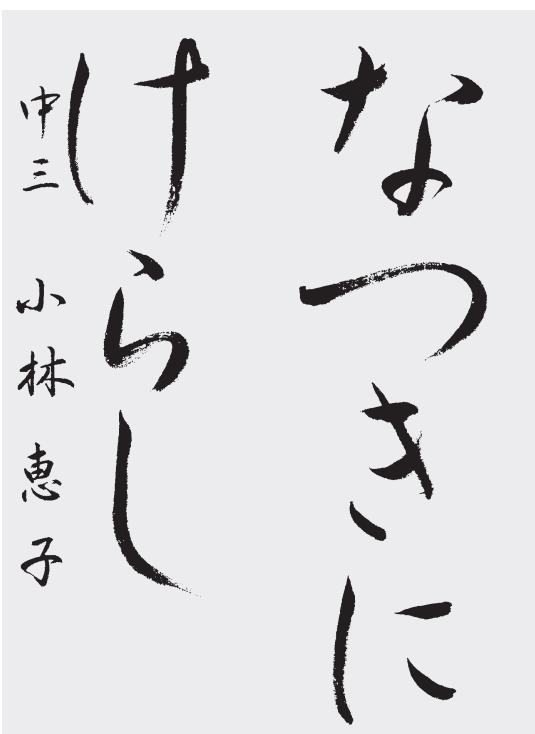
中学全学年参考手本（中学生は、どの課題を書いてもかまいません。）



島田白露先生



後藤大峰先生



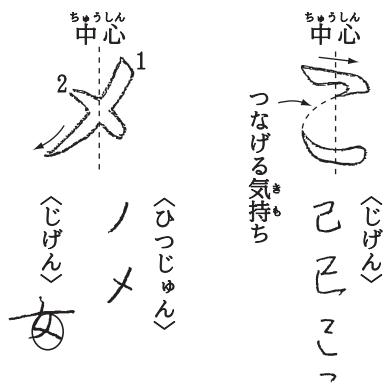
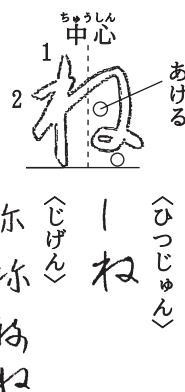
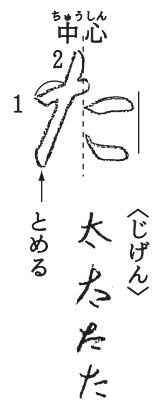
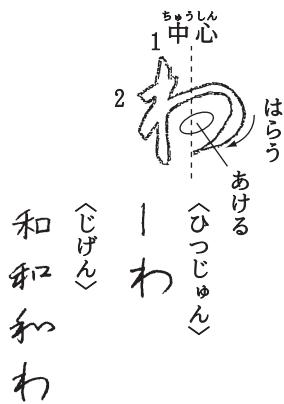
小竹石雲先生



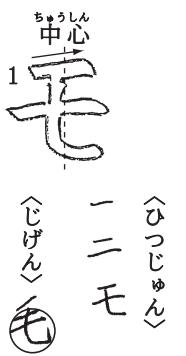
川村美泉先生

# 毛筆参考手本解説(1)

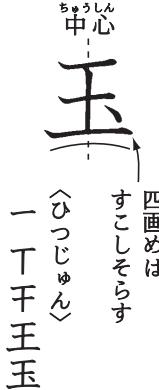
1年



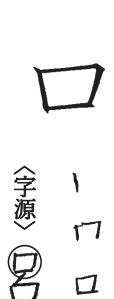
※カタカナの字源は漢字の字画を省略したもの



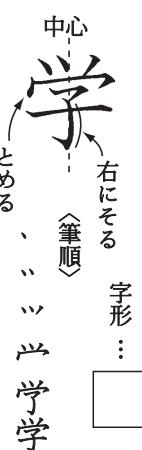
2年



3年



4年



長音記号 (kanji origin) (カタカナで音をのばすとき) とき (use)

## 毛筆参考手本解説(2)

5年

中学校

書写教育  
全国大学書写書道教育学会編より転載

少しあける

中心 必

さげない

中心 必

さげない

筆順

さげない

ソ必必必

中心 応

字形:

等間隔に

少し外に出す

一 广 広 応 応

筆順

少しあける

中心 新

字形:

そる

中心 新

字形:

スカ立 亲 新 新

筆順

少しあける

中心 要

字形:

少しあげる

最終画は

少しそる

西とちがいます

筆順

西 西 要/要要要

中心 用

字形:

等間隔に

少し内側にむける

中心 風

字形:

そる

中心 風

字形:

ノ凡 凡 風 風 風

筆順

少しあげる

中心 早

字形:

少しあげる

上にそらす

少しあげる

最終画は

少しそる

西とちがいます

筆順

西 西 早/早早早

中心 若

字形:

少しあげる

内側にむける

中心 葉

字形:

少しあげる

上にそらす

四画めは長く上にそらす

筆順

サ サ 芽 葉 葉

中心 起

字形:

少しあげる

上にそらす

少しあげる

最終画は

少しそる

西とちがいます

筆順

サ サ 起 起 起 起 起

中心 走

字形:

少しあげる

上にそらす

少しあげる

最終画は

少しそる

西とちがいます

筆順

サ サ 走 走 走 走 走

中心 春

字形:

少しあげる

上にそらす

少しあげる

最終画は

少しそる

西とちがいます

筆順

サ サ 春 春 春 春 春

中心 夏

字形:

少しあげる

上にそらす

少しあげる

最終画は

少しそる

西とちがいます

筆順

サ サ 夏 夏 夏 夏 夏

中心 白

字形:

少しあげる

上にそらす

少しあげる

最終画は

少しそる

西とちがいます

筆順

サ サ 白 白 白 白 白

中心 妙

字形:

少しあげる

上にそらす

少しあげる

最終画は

少しそる

西とちがいます

筆順

サ サ 妙 妙 妙 妙 妙

中心 天

字形:

少しあげる

上にそらす

少しあげる

最終画は

少しそる

西とちがいます

筆順

サ サ 天 天 天 天 天

中心 春

字形:

少しあげる

上にそらす

少しあげる

最終画は

少しそる

西とちがいます

筆順

サ サ 春 春 春 春 春

中心 夏

字形:

少しあげる

上にそらす

少しあげる

最終画は

少しそる

西とちがいます

筆順

サ サ 夏 夏 夏 夏 夏

中心 白

字形:

少しあげる

上にそらす

少しあげる

最終画は

少しそる

西とちがいます

筆順

サ サ 白 白 白 白 白

中心 妙

字形:

少しあげる

上にそらす

少しあげる

最終画は

少しそる

西とちがいます

筆順

サ サ 妙 妙 妙 妙 妙

中心 天

字形:

少しあげる

上にそらす

少しあげる

最終画は

少しそる

西とちがいます

筆順

サ サ 天 天 天 天 天

中心 香

字形:

少しあげる

上にそらす

少しあげる

最終画は

少しそる

西とちがいます

筆順

サ サ 香 香 香 香 香

中心 真

字形:

少しあげる

上にそらす

少しあげる

最終画は

少しそる

西とちがいます

筆順

サ サ 真 真 真 真 真

中心 着

字形:

少しあげる

上にそらす

少しあげる

最終画は

少しそる

西とちがいます

筆順

サ サ 着 着 着 着 着

中心 余

字形:

少しあげる

上にそらす

少しあげる

最終画は

少しそる

西とちがいます

筆順

サ サ 余 余 余 余 余

中心 仁

字形:

少しあげる

上にそらす

少しあげる

最終画は

少しそる

西とちがいます

筆順

サ サ 仁 仁 仁 仁 仁

中心 仁

字形:

少しあげる

上にそらす

少しあげる

最終画は

少しそる

西とちがいます

筆順

サ サ 仁 仁 仁 仁 仁

中心 仁

字形:

少しあげる

上にそらす

少しあげる

最終画は

少しそる

西とちがいます

筆順

サ サ 仁 仁 仁 仁 仁

中心 仁

字形:

少しあげる

上にそらす

少しあげる

最終画は

少しそる

西とちがいます

筆順

サ サ 仁 仁 仁 仁 仁

中心 仁

字形:

少しあげる

上にそらす

少しあげる

最終画は

少しそる

西とちがいます

筆順

サ サ 仁 仁 仁 仁 仁

中心 仁

字形:

少しあげる

上にそらす

少しあげる

最終画は

少しそる

西とちがいます

筆順

サ サ 仁 仁 仁 仁 仁

中心 仁

字形:

少しあげる

上にそらす

少しあげる

最終画は

少しそる

西とちがいます

筆順

サ サ 仁 仁 仁 仁 仁

中心 仁

字形:

少しあげる

上にそらす

少しあげる

最終画は

少しそる

西とちがいます

筆順

サ サ 仁 仁 仁 仁 仁

中心 仁

字形:

少しあげる

上にそらす

少しあげる

最終画は

少しそる

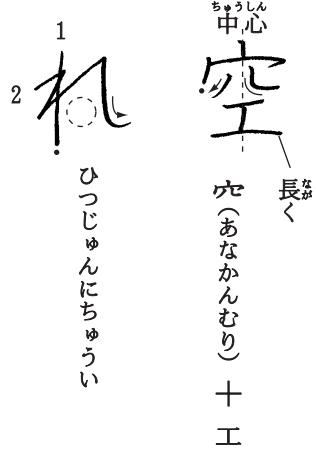
## 〔6月10日締切課題〕作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学2年

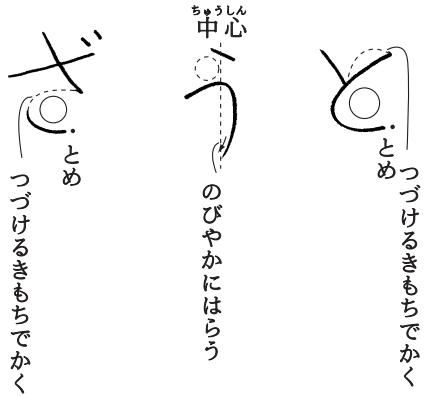
幼・小学1年

支部名	と	き	
段・級	て も さ	よ う	
学年	れ	は	
二	い	、	
名前	で	青	
大竹ことの	す	空	が
	。	か	。

支部名	や	い	あ
だん・きゅう	ま	ま	り
がくねん	し	し	が
一	た	し	ど
なまえ	た	。	う
	さ	。	。
	と		。
	う		。
	れ		。



『青空』  
「空」の字形をただしく書きましょう。



『ありがとう』  
「とめ」「はね」「はらい」をただしくかぎま  
しょう。

〔6月10日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学4年

小学3年

支部名	に	こ	わ	の	行	の
段・級	う	ん	か	行	列	行
学年	つ	だ	葉	の	を	列
四	つ	日	葉	間	見	列
名前	て	光	の	から	ま	す
知念類	い	が	間	差	し	み
	ま	、	か	ら	し	で
	す	、	ら	差	た	、
	。	、	し	し	。	、

支部名	の	行	列	を	見	ま	し	た	あ	り
段・級	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
学年	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
三	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
名前	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
谷村新	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、

中心  
差

（筆順）  
サ ピ ヤ リ マ リ 差 差

間

（筆順）  
一 フ フ フ フ フ 間 間

中心  
葉

（筆順）  
サ ピ ャ リ マ リ 葉 葉

『日光』  
筆順に気をつけて、字形を整えましょう。  
たてと横の分間をととのえて

列

「へん」が大きい  
「行」も「列」も  
「へん」と「つくり」のつり  
あいに気をつけましょう。

行

「つくり」が大きい

庭

（ひつじゅん）  
注意。書かれた長さを「はらい」の方向に  
廣 広 庭 庭 庭

『ありの行列』  
とくに「庭」の字形を正しく書きましょう。

〔6月10日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学 6 年

小学五年

支部名			
段・級	所を見学しました。	の指示に従つて、裁判	わたしは、係りの人
学年			
六			
名前			
山田菜美			



長く、少しそる  
〈筆順〉



「はらい」の方向に注意



筆順

『裁判所』

「ヒ」と「日」の組み立てに  
気をつけましょう。

氣をつけましょう

中心

少しそる



筆順



筆順

『友達』

〔6月10日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

中 学 生 (行 書)

中 学 生 (楷 書)

支部名	
段・級	
学年	中一
名 前	夏木 七海
	宮沢賢治が追い求めた理想。 それは、人間がみんな人間らし い生き方ができる社会だ。

支部名	
段・級	
学年	中一
名 前	夏木 七海
	宮沢賢治が追い求めた理想。 それは、人間がみんな人間らし い生き方ができる社会だ。

間  
（筆順）  
ノ ロ ル ム 間

・行書のワンポイントアドバイス  
行書は、楷書のように、点や画を一つ一つ作るのとは違い、かなり自由で流れのある筆使いの中から点画が形成されます。「間」の字の二種類の行書を書き比べて下さい。

中心  
方  
（筆順）  
ノ 一 方  
中心  
追  
（筆順）  
ノ 戸 旨 旨 追 追

『宮沢賢治』  
漢字よりひらがなを少しこまかく書きましょう。

この右払いの上部はあける  
（筆順）  
ノ 戸 旨 旨 追 追

# これからのお品締切日と課題

7月号～12月号までの作品締切日と毛筆課題

小 5
文 章 内 容 一 に で 私 と 書 い 自 友 達 い 分 の よ う み 体 験 と よ う 驚 い 。 を う

幼・小1
に い き ま し た。
た い い く か ん
い く か ん
く か ん

小 6
て は 、 文 章 ま と 筆 者 を め る の 意 約 こ と 図 す る が 大 沿 場 切。 つ 合

中学生
現 代 は ホ ー ム ペ ー ジ を 作 成 し 、 誰
で も 世 界 中 に 情 報 を 発 信 す る こ と が

## 7月号の硬筆課題

※硬筆課題は、翌月課題のみ掲載しております。

中学生 (全学年共通)	小 6	小 5	小 4	小 3	小 2	幼・ 小1	締切日
い星を願	花 火	雨あがり	水浴び	元 気	火 山	みえる	あ
ぐやまのか	真理探究	緑 地	歴 史	夏 休み	友 だち	は や い	い ま
夏の富士	自 在	記念の日	開 始	実 行	竹 や ぶ	こ お り	そ
みれば	野 球 大 会	思 考 力	直 線	意 味	目 あ て	へ ち ま	も の
の夕映え	名 月	正 倉 院	出 席	林 道	ペ ン	ひ ろ ば	る
きかでもしつ	清 少 納 言	国際化	飛 ぶ	外 国	秋	のぞみ	つ き
世界がる	紅 葉	責 任 感	願 い	町 村	水 玉	もみじ	え
法が柿くなるなり鐘	源 氏 物 語	達 人 の 技	夕 燃け	時 計	こん虫	月	よ む
古都奈良	答 案	筆 の 里	風 景	成 長	見 方	え が お	は
きかまのあ	自然科学	立 派 な 人	連 合	家 族	大 切	ダ ム	す み
広める	天 守 閣	飼 育 係	星 ふ る 夜	仲 間	廣 が り	つ ば さ	き
ころもう	飛 行 機 雲	喜 び の 声	成 り 立 ち	冬 ご も り	安 全	か も め	ふ ゆ

# 書写を知り 学び楽しむ



広瀬舟雲先生

講師の広瀬舟雲先生は、武蔵野大学教育学部児童教育学科教授、全国大学書写書道教育学会副理事長、書道藝術院展常任総務です。著書に「刻された書と石の記憶」、共著に「明解・書写教育」などがあります。

## 第3回 書道と書写の違い？

「書道はある程度学べば子供たちに『書写』を教えることは簡単」と思われておられる書塾の先生方が大部分です。確かに毛筆の技法をしっかり習得していれば子供たちに教えるのは容易です。ところが多くの

書塾の先生方が子供たちに書塾で教える内容は「書道または習字」であって、現在の学校教育の授業で行っている書写の指導ではないのです。書写の指導は、その専門家からある程度きちんと指導を受け、学習していないと書写の目標にあつた教え方はできません。何年も前に自分たち（現在の先生方）が、かつて子供のころに小・中学校で恩師から指導を受けた、授業中に朱墨で添削したり丸を付けたりする方法は、書塾では一般的な方法ですが、現在の小・中学校の授業では、そぐわないのです。今回は「書道」と「書写」のめざすところの違いについて述べたいと思います。

書道は『廣辞苑』には「毛筆を用いて文字を巧みに書く術。」とあり、『明鏡国語辞典』には「毛筆を使って文字を書く芸道。また、毛筆による書の美を表す芸術。」と記されています。ここからわかるように書道は、毛筆を用いて文字を美しく書く、つまり「毛筆の書の美」を求めているものと

言えましょう。

一方、書写は「正しく整えて書くこと」を目標としています。書写の目標には「美」という語はあえて除かれています。この点がまず大きく違うのです。

「正しく整えて書けば字の形は美しいではないか」という人もおられると思います。しかし美とすると、かすれ、にじみ、迫力、おだやか、極細、極太、また味のある線の美、この他に不均衡だが全体としてつり合いかとれている美などとても多くの種類の美が含まれてしまいます。これらの美を追求するのが芸術としての書道の分野であるとし、正しい字形の文字を書くことが主眼の国語科である書写からは、「美」という要素をあえて除き、「整えて」という語にしたのでした。国語科書写のもう一つの目標は、「硬筆文字の点画を整えて書くための毛筆での学習」であり「毛筆の技能をじょうずにするための毛筆ではないこと」これも書道と書写の大きな相違点です。小・中学校「書写」の毛筆の授業は「書道」の授業ではありません。指導者の方々は、まず、この点を知っておいていただきたいと存じます。

# 今月のホープ



しっかりと安定した筆使いで、はね、はらいなども正確に書けています。たっぷり豊かな線で充実した作。

支部名	もくせい	説得力のある提案を
段・級		するためには、発表の準
学年	六	備をします。
氏名	長尾 蓮	
所属	もくせい支部	

力強い線で書かれていて、バランスが良く、安定した作品です。一点一画に心がこもっている秀作です。

中三 鈴木結愛（雲母支部）



よく見て丁寧に書いています。筆はこびもきれいで名前まで注意深く書いていて、あたたかみのある作品です。

小二 松橋ひまり（琴月支部）

小六 長尾蓮（もくせい支部）

支部名	光峰	をあげた人を、指名し
段・級		たんにんの先生は手
学年	四	たんにんの先生は手
氏名	高橋夢	
所属	高橋夢	

一字毎に丁寧に心をこめて書いています。字形美しくハネハライも正確で気脈一貫した堂々の作です。

小四 高橋夢（光峰支部）

## 特集：第70回記念書道芸術院展

「南無枯葉」



佐久間幸扇

第70回記念の書道芸術院展において、最高賞の「書道芸術春華賞」を戴き心より御礼申し上げます。題材選びに迷い、この句に出会った時脳裏に浮かんだのは短編小説家オー。

ヘンリーの「最後の一葉」でした。雪混じりの風雨の中、人の生死をも左右する一枚の枯葉、その緊張感を思いつつ出来たのがこの作品です。勿論、句の作者の意図は知らず私の勝手な感情移入ですが、さて、立派すぎる賞を戴きどうして、最もかと考えながら東京都美術館の物故者展に足を運んだ時、最初に目にいったのが種谷扇舟先生の「前向き」と書かれた作品でした。これが答えただと妙に納得し気持ちが軽くなりました。種谷扇舟先生、辻元大雲先生、お世話になつた先生方に感謝申し上げます。ありがとうございました。



現代詩文書部  
佐久間幸扇

### 書道芸術院春華賞

# 第70回記念書道芸術院展

## 書道芸術院大賞

「盲田の秋」



錢谷 雪蘭



現代詩文書部  
錢谷雪蘭

この度は、記念すべき第70回書道芸術院展におきまして、栄える大賞を頂きました坂本素雪先生方、と共に書の道を歩んできた書友の皆様、支えてくれた家族に対し、感謝の気持ちでいっぱいです。素晴らしい方々に恵まれて書ができる幸せを今、改めてかみしめております。

私は詩との出会いもまた幸運だったよう思います。書いているうちに、さまざまと詩の情景が浮かんできたからです。素材が持つイメージを表現するのは本当に難しいのですが、自分がどんな世界観を持ち、書で何をどう表現したいのか、これからも摸索し続けたいと思います。今後ともご指導の程、よろしくお願ひ申し上げます。

「王蒙詩」



中尾  
琴麗

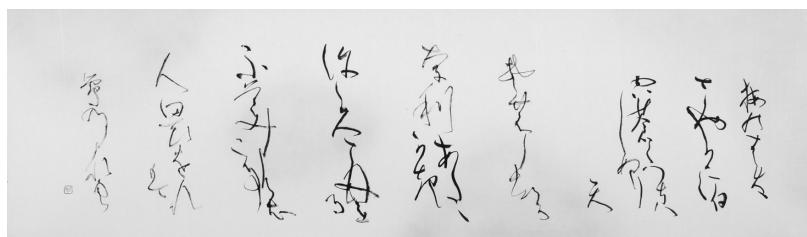
## 第70回展記念賞

— 審査会員 —



「大山雅由の句」

浅利 祥紫



「梅の花」

松村くに子



「steady」

後藤 法明

「バイブルーション」

真下 京子



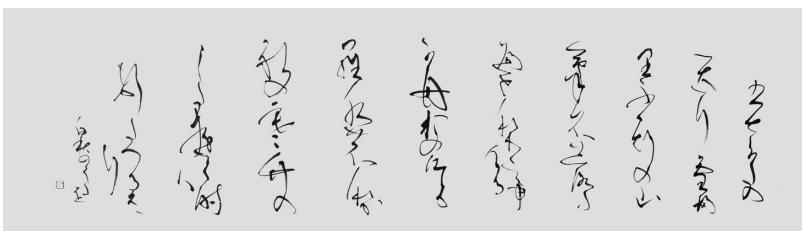
書道芸術院準大賞

— 審査会員候補 —



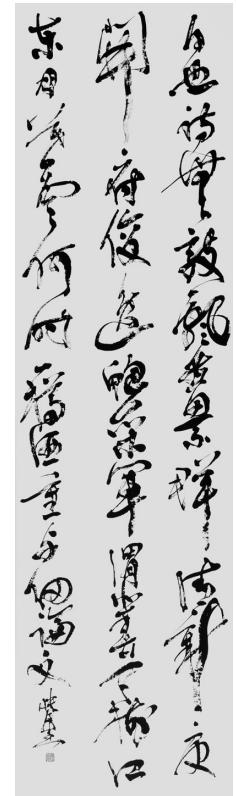
「論語学而篇」

加藤 賦流

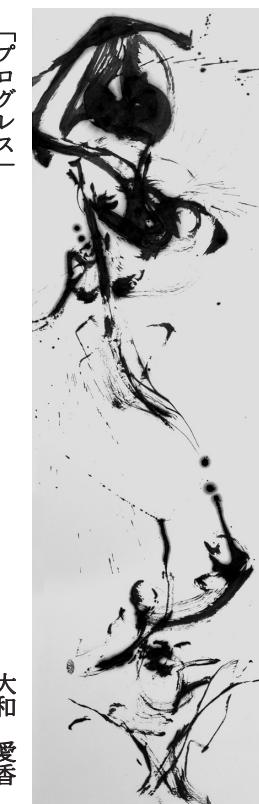


「ひさかたの」

西巻サト子

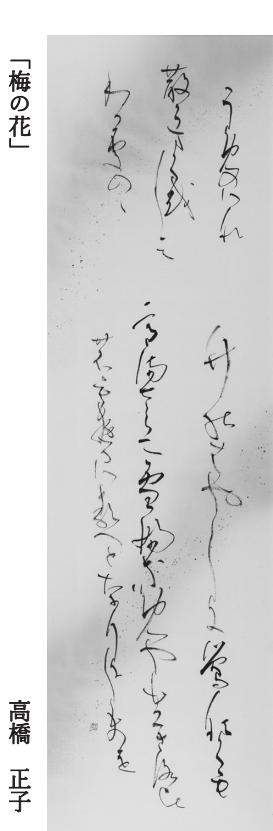


「春日憶李白」



大和  
愛香

「プログレス」



高橋  
正子

「梅の花」

# 漢字に親しもう

(87)

○新学期が始まりました。新しい生活には慣れたでしょうか?事務所は昇級試験の準備が始まり、忙しくなってきました。皆さんの

必  
ひつ  
かなづかーす  
心の部  
かくとう  
5画  
ひじん  
筆順  
、ソ必必  
なりたち  
捺  
火  
必

対義語  
不要

※必のついた字は「しめつける」という意味に関係があります。

密  
ひそか  
ぴたりとしめて外から見えなくする。

(小学館 例解学習漢字辞典より)

棒きれをまっすぐにするために、両がわから木を当てて、ぐるぐるまいたようすを表す字。両がわからしめつけて動けないことから、「そうならざるをえない」という意味となつた。

なりたち  
かならず。きっと。  
まちがいなく。

解説

「必」の字は、まちがいやすい筆順の代表的な漢字です。書写のポイントとしては、

「火」(そり)の止めるに注意して下さい。  
今回の課題「必要」は注意深くお手本をみて書かないとまちがいやすい所が多いので頑張って下さい。

かならず。きっと。  
まちがいなく。

(豪峰)

○新学期が始まりました。新しい生活には慣れたでしょうか?事務所は昇級試験の準備が始まり、忙しくなってきました。皆さんのすばらしい作品を待っています。

○先月号で写真版の名前がいや、「清書短評」で言葉の足らない個所があり、すみませんでした。(迷惑をおかけいたしました。今後も注意深く編集作業をしていきたいと思いまますので、よろしくお願ひいたします。

○2月に東京都美術館で第68回全国学生書道展と併催された第70回記念書道芸術院展の上位入賞作品を掲載しました。書道芸術院は、漢字・かな・現代詩文書・篆刻刻字・前衛書の5部門を擁する総合団体です。審査会員の中から「春華賞」はただ一人、「記念賞」は5人、「審査会員候補の中から「大賞」1名、「準大賞」5人です。バラエティーに富んだ作品をじっくり鑑賞してください。皆さんが書道をずっと続けて書道芸術院展に出品してくれることを待っています。

